



四 気 折 々

川越町立川越中学校
「学校だより」第46号
令和7年 3月11日
「東日本大震災から14年」
川越町と中学の防災について

「東日本大震災から今日で14年」。災害関連死を含めて2万2千人以上の犠牲者が出た東日本大震災は、今日11日、発生から14年が経過。14年経過した今も全国で約2万8千人が避難を余儀なくされていると聞きます。私たちが暮らす大切な故郷である川越町もいつ、大きな被害に遭う可能性もあるからこそ、この機会に考えよう！
「東日本大震災」「能登半島地震」等から考える『川越中学校と川越町の防災』について。大切な自分の仲間の家族の命を守るために・・・
だからこそ、川越中学校では、3月21日（金）全校避難訓練（第3次避難場所の朝日町民グラウンド）を実施します！

(1) 『東日本大震災』『能登半島地震』等から考える防災。そして対応について。今の現状について

1年前の第3学期始業式では校長から、考えてもらいたいお話として「能登半島地震」についてお伝えしました。石川県輪島市、珠洲市を中心に多くの小・中学校の1年前の3学期の授業が実施できない状況だったこと。本来学びの場であるはずの中学校が避難所となり、その中学校に避難生活をする方たちが、生徒数をはるかに上回るような状態であったこと。みなさんと同じように中学校生活を楽しみたい、高校受験に向けて頑張りたい、部活動を頑張りたいという今日を同じように生きたかった同じ年代の子どもたちが亡くなっていること。2万人を超える方たちが真冬の避難生活を余儀なくなれたこと。このようなことに目を背けることはできませんと伝えさせていただきました。

14年前の「東日本大震災」では死者1万5900人、行方不明者2520人、震災関連死3808人、2025年現在、避難者が全国で2万8000人。このように大変多くの犠牲者が出た東日本大震災が本日の14時46分に14年目を迎えます。犠牲になられた多くの方々には追悼の意を表し、一日も早く、街の復興と合わせて心の復興を望むばかりです。

今年1月政府の地震調査研究推進本部が「南海トラフ巨大地震の発生確率」を引き上げました。これまでマグニチュード8～9クラスの地震発生率は30年以内に「70%～80%」となっていたが今年1月には『南海トラフ地震発生率が30年以内に80%』引き上げられました。
【南海トラフで発生する巨大地震について】私たちの暮らす川越町にも大きな被害をもたらす「直下型地震」。

「能登半島地震」は石川県能登半島を中心にマグニチュード7.6、最大震度7という想像をはるかに超す「直下型地震で最大級の地震」であり、津波到達速度もまったく想像できないくらいの速さで石川県の陸地に到達。『今現在で想定される最大級の災害』に備える意味でも一番大切なことは『命（いのち）を守る行動』です。今後30年以内に『80%』の確率でマグニチュード8～9クラスの大地震が発生すると言われていています。伊勢湾の一番といてもいい奥地に位置する川越町の地震被害は、能登半島地震と同じ「直下型地震」としてかなり大きな地震として想定されています。最大級の被害が想定されるのは活断層である「養老一桑名一四日市断層帯」を震源とする大地震であり、三重県北勢地区における死者数は、約5,900人と想定されます（ただし、発生した時間帯によっては想定以上の死者数になる恐れも）。川越町は地震進度も最大7、そして地震による「液果危険度（地震発生時に、水を十分に含んだ緩い砂地盤が強い地震で激しく揺らされた際に起こる川越町の液状化＜地盤が液体のようにドロドロになる現象＞の可能性）も極めて高い！とされています。

- 川越町の「津波」の想定浸水域 →→1m～5m(川越中学校旧校舎では2m)と想定されています。
- 川越町の「津波30cm」の到達予想時間 →→60分～90分(川越中学校旧校舎の1階が浸水)と想定。
- 朝明川洪水時の川越町の想定浸水深 →→1m～5m未満(川越中学校旧校舎では1m～3m浸水)
- 員弁川洪水時の川越町の想定浸水深 →→1m～10m未満(川越中学校旧校舎では1m～3m浸水)

地震だ！津波だ！すぐ避難！（いつ発生してもおかしくない大地震）

津波から身を守るには、まずは逃げる。川越町の地域によっては短時間で津波がやってきます。

（能登半島地震が津波の驚くほどの速さ、怖さを物語っています）

（2）【 川越中学校の避難場所について 】

～ 子どもたちの命の安全を最優先に、大切な命を守る行動をします！ ～

- ① 地震発生後、建物その他の現状を考慮した上でグラウンドへ避難。（第一次避難場所）
※ 現在の仮設校舎では、あいあいホール前（2学期はじめに実施した避難場所）に避難します。
- ② 地震発生後、火災発生の場合はグラウンドへ避難。
※ 現在の仮設校舎では、あいあいホール前に避難します。
- ③ 地震発生後、津波到達の恐れがある場合は3階教室へ避難。2階の学級生徒は自分の学級の真上の3階へ避難（なお避難してきた幼稚園児及び川越町民は3階廊下へ避難させる）
※ 現在の仮設校舎では、第二次避難場所の『朝日町民グラウンドへ避難』。
- ④ 大津波が来る可能性がある場合は校舎屋上へ避難（第二次避難場所）。そして、津波到達まで時間的余裕がある場合、朝日町民グラウンドまで避難（第三次避難場所）。避難してきた園児、川越町民とともに避難）。

【川越中学校令和6年度「防災管理計画」より】

（3）【 川越中学校の『災害時の引き渡し及び避難所の開設』について 】

～ 児童生徒の安全確保にかかわって ～

① 児童生徒の下校・引き渡し

下校措置等を実施する際は、保護者等に直接引き渡すなど、児童生徒の安全確保に十分配慮する。また、児童生徒を下校させる場合は、通学路等の安全を確認し、集団下校（同じ地域ごとやできる限り複数下校）させるなどの安全確保対策を行う。

② 帰宅困難児童生徒の保護

帰宅途中での浸水や保護者等の不在等により、帰宅が困難な児童生徒については、校内や避難所などの安全な場所において保護する。【以上、川越町地域防災計画（P87～）より一部抜粋】

【 川越中学校の災害時の引き渡し及び避難所の開設について 】 保護者の皆さまへ

今後、学校生活の中で、大地震や津波等の災害や事故が発生した場合は、校内外への避難・安全確保等を行います。川越町教育委員会と連絡を取り合う中で、学校より家庭の方が安全・安心と判断できる場合に限り、保護者と電話や配信メール（すぐーる）・ホームページ等で連絡を取り、生徒を下校させる、または、保護者が学校に生徒を引き取りに来ていただくこと（引き渡し）を可能としています。

しかし、保護者の確認や安全が確保できない場合については、引き続き学校にて生徒の安全を確保することとします。

引き渡しを行う保護者につきましては、生徒の身の安全を最優先に考えて『緊急連絡カード（年度当初提出いただいています）』の裏面にある「緊急時の連絡先1・2・3の欄に記載されている方とします」。もちろん緊急時なので、必ずこの「緊急連絡カード通り」とはいかないこともあると思いますが、この緊急時連絡カードを基本とします。ご理解とご協力をお願いします。なお、川越町内で『川越町防災会議』から避難所開設の指示が出た場合は、川越中学校は「指定緊急避難場所」及び「指定避難場所」として開設し、生徒や町民等の地域の方々の安全を確保することになります。詳しくは『川越町防災マップ』や川越町ホームページ等にてご確認をお願いします。

3月21日（金）『全校避難訓練（第3次避難場所の朝日町民グラウンドへ）』を実施！ g 2 限目～3 限目 9時30分から 11時00分ま

で